

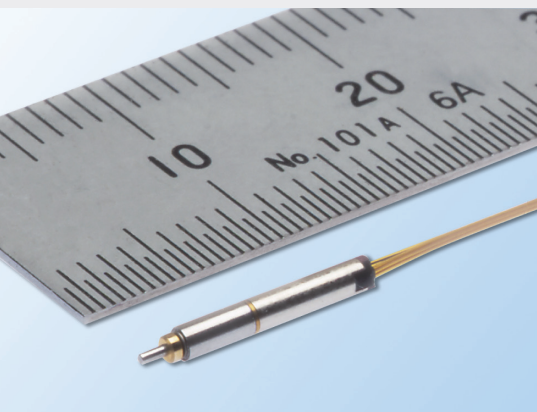
並木精密宝石 さらなる発展を期しスイスへ。

並木精密宝石は、EPFLとの共同研究開発のため、スイス・ヴォー州のテクノロジーインキュベーターPSE内に拠点を設立



「スイス外国企業誘致局は、敏速に対応し、当社が必要としていた機関への扉を開いてくれました。スイスでのR&Dについて特別なネットワークを持ち合わせていなくても、同局の支援により、素早く基盤を築き上げることができました」

Namiki Precision of Europe SA 代表取締役 下田洋一氏



1939年設立、東京に本社を置く並木精密宝石(株)は、特殊素材とコア技術である「切る・削る・磨く」を進化させ、先端技術との融合により通信・半導体分野の精密部品と医療用の製品を供給する世界的リーダーです。長年にわたる製造プロセスの技術・研究開発への熱心な取り組みによって生み出された独自の素材と製品により、常に最先端を走り続けています。

同社は、さらなる発展のための環境構築を求めてヨーロッパの顧客に近い拠点を設けることを検討し、同時にナノテクノロジーを含む成長分野での研究開発パートナーを探していました。ヨーロッパ市場を分析し、好立地を見定める国々の候補リストを検討した後、在日スイス大使館 スイス外国企業誘致局(STIPJ)へ問い合わせを行いました。STIPJは、並木のヨーロッパでの事業拠点の立地選定基準と要望に応じて、物理的・法的にも新会社設立を容易に行えるテクノロジーインキュベーターを紹介し、研究開発やサプライヤーのネットワークへの参入を促しました。そして並木は、施設や資源条件等を考慮した上で6つの州を候補に選びました。



それから数週間後、並木関係者はSTIPJのサポートのもと、これらの州を訪問し、州や地域の経済開発局と協議を行いました。その後再びヴォー州を訪れ、様々な利点を考慮した結果、ローザンヌを最適立地として選択しました。中でも並木にとって魅力的だったことは、EPFL (Ecole Polytechnique Federale de Lausanne) キャンパス内にあるPSE (Parc Scientifique de l'EPFL) 施設内にオフィススペースを確保できたことでした。PSEは科学研究開発事業を立ち上げるためのインキュベーターであり、世界レベルの共同研究の機会や新製品のエンドユーザーとの密接な関係を得ることが可能だからです。その後ヴォー州経済開発局によって、並木のスイス国内における行政手続きなどへのサポートが行われました。

STIPJは、さらに在日スイス大使館 科学技術部を紹介し、並木の専門分野でのスイス研究機関との取り組みについて貴重なアドバイスを行いました。ヴォー州経済開発局は、EPFL、Laboratoire des Systemes RobotiquesのBleuler教授を紹介し、その後すぐに並木はEPFLとの共同開発契約を締結しました。EPFLとの連携により、新しい市場を形成する並木の革新的製品であるφ1.5mmマイクロモーターなどの最先端技術を送り出すことが可能となりました。並木精密宝石は、ヨーロッパの事業拠点の検討を始めてわずか1年半で、PSE内におけるアジアで最初の企業としてNamiki Precision of Europe SAを設立しました。

August 2010

Namiki

Schweizerische Eidgenossenschaft
Confédération suisse
Confederazione Svizzera
Confederaziun svizra
Embassy of Switzerland in Japan
State Secretariat for Education and Research SER

GREATER GENEVA BERNE area
economic development agency

DEV
DEVELOPMENT ECONOMIC
STATE OF VAUD - SWITZERLAND

PSE PARC SCIENTIFIQUE
SUR LE SITE DE L'EPFL